

クマ類の保護及び管理に関するレポート（令和6年度版）骨子案

1. はじめに

■ 保護管理レポートとは？

クマ類に関する最新情報をとりまとめ、「特定鳥獣保護・管理計画作成のためのガイドライン」の補足を行う。

2. 近年のクマ類の保護・管理をめぐる動き

■ 令和5年度にクマ類の人身被害件数及び許可捕獲数は過去最多を記録した。

■ 秋田県及び岩手県を中心に、人の生活圏へのクマ類の出没が相次いだ。

→科学的知見に基づき、クマ類の出没や被害の発生要因を分析し、被害防止に向けた総合的な対策の方針が取りまとめられた 『クマ類による被害防止に向けた対策方針』（令和6年2月8日）

■ クマ類による被害防止に向け「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律施行規則の一部を改正する省令（令和6年4月16日公布・施行）」により、指定管理鳥獣にクマ類（ツキノワグマについては、徳島県、香川県、愛媛県及び高知県の個体群以外の個体群）を追加した（規則第1条の3）。

3. 本年度のレポートのテーマ

人身被害防止のための効果的な対策の実施

■ クマ類の人の生活圏への出没や人身被害が増加している。
 ■ 人身被害を未然に防止すること、再発防止をすることが重要である。
 ■ 人身被害の正確な情報を収集し、発生状況を整理し要因の分析することが、適切な人身被害防止対策に繋がる。

Step.1

事故発生状況の正確な情報収集と集計
どのような状況で発生したのか？
要因はなんだったのか？

正確な情報収集がその後の分析に必要

秋田県・岩手県の事故を集計

Step.2

事故防止にむけた情報の類型化
情報収集・集計により判明した事故発生状況の類型化と要因の分析

事故の発生原因の解析・類型化

Step.3

適切な対策の検討と実施
分析結果を用いることで、適切な方法での人身被害防止に向けた対策の検討と実施が可能

現地視察をもとにした事例の紹介

Step 1：人身被害の発生状況の集計

- 令和5年度に人身被害の発生件数が多かった秋田県と岩手県が収集した人身被害の記録を集計する。
- 人身被害の発生環境をクマの生息域である「山林内」、クマの生息域外である「人の生活圏内」の2つに区分する。

「山林内」「人の生活圏内」それぞれにおいて、人身被害が発生した以下の状況を整理する。

- 季節・時間帯
- 周辺環境
- 人身被害発生時の被害者の行動（行動人数や予防対策の有無等）
- 加害クマの特徴（単独・子連れ）
- 加害クマの行動（人への付きまといや積極的な攻撃があったか等）
- 人身被害発生地点周辺のクマの出没情報（目撃・被害等）の有無
- その他、上記の項目に含まれないが重要なポイント（例：クマに対する予防対策としてクマ鈴は付けていたが、休憩中に荷物とともに離れた場所に置いていた）

Step 2：人身被害発生状況の類型化

- Step 1の集計結果から人身被害発生状況を類型化する。

類型	1. 山林内	(1) 山菜採り等の活動中
		(2) 登山等の活動中
		(3) . . .
	2. 人の生活圏内	(1) 散歩等の日常の活動中
		(2) 農作業中
		(3) 人家周辺
		(4) . . .

- 類型化した発生状況ごとに発生要因を整理

Step 3：人身被害防止に向けた対策の検討と実施

- Step 2で整理した「発生状況ごと」の「発生要因」に対して、今後の人身被害防止のために、自治体が実施すべき対策について提示する。

例) 1. 山林内 > (1) 山菜採り等の活動中

発生状況	
発生時期	4~5月
行動人数	単独
その他	クマ鈴等の遭遇対策グッズが適切に機能していない場合がある

推奨される対策
<p>◆ 積極的な注意喚起</p> <ul style="list-style-type: none">効果的な注意喚起の時期注意喚起の内容効果的な注意喚起の方法<ul style="list-style-type: none">① 揭示板（設置場所： . . . ）② HPでの呼びかけ③ チラシの配布（配布場所、対象）

- 秋田県、岩手県で実施されている実際の対策事例を紹介する。

4. 参考：クマ類に遭遇しないための対策、遭遇した際の対処法等

- 出会わぬいための方法
- クマ対策グッズの適切な使用方法
- 出会ってしまった際の行動
- 攻撃を受けた際の防御姿勢
- クマ類の人身被害防止に関する参考資料等